

# 西中学校区 保幼小中連携通信

グローイングアッププラン 1年目 [点を深めるブロック連携]

第7号 平成30年1月11日 発行責任者 加藤 淳/向井 一樹

(西中学校区連携コーディネーター)

## ～西中校区合同研修会の振り返り～

12月6日、西中校区2回目の合同授業研、今回は郡小学校と西中学校で取り組みました。学期末の慌ただしい中、たくさんの先生方にご参加いただきました。ありがとうございました。

郡小学校では、6年生2クラスで外国語活動の公開授業を行いました。外国語を活用したコミュニケーションの中で、思いをつなぐことをテーマに、「できることを紹介しよう」に取り組みました。

講演会では、川西市で小学校英語活動支援員もされている、大阪外語専門学校非常勤講師の天野先生をお招きして、これからの学習指導要領や新教材 We Can! Small Talk についてアクティビティを交えて講演していただきました。実際に活動したことで何をしておけばいいか、アンテナを高くすることができました。

西中学校では、1年1組の生徒が体育館で英語の公開授業を行いました。「課題生に届く授業づくり～“ふりかえり”のある授業～」をテーマに、曾我先生によるオールイングリッシュの授業でした。もちろん生徒の活動も英語でしたが、班での活動なども積極的に取り組めていました。

公開授業後の研修会ではグループに分かれて、公開授業のテーマにそった交流を行いました。各校に持ち帰って、児童・生徒のより良い学びに繋げていけるよう、各小中学校で、どのような取り組みを行っているかを具体的な話を交えて交流することができました。

また、大阪府教育庁の梶西指導主事による講話では、これからの外国語活動・英語の授業についてのお話では、これからの指導要領改訂による学校の授業の変化(小学校からのオールイングリッシュ授業)などの具体的な対応についてのお話を頂きました。

今年度、西中校区では2020年から全面実施となる新学習指導要領を踏まえ、道徳・外国語活動の研修、授業研究に取り組みました。次年度も保幼小中連携が円滑に進むよう、各部会や保幼小中の交流が深まる企画・運営を行います。



## 1) 公開授業について

- 始めのチャンツで声がよく出ていた。動作のフレーズ練習の時に、一人の子どもが答えたらみんなでリピートするというのが自然にできていていいなと思った。チーム対抗の時に、「セーフ」と子どもたちで言って、みんなで合わせて言おうとしていたのがよかった。
- とっさの一言など、日常で使う言葉を繰り返し使っていたのがよかったと思いました。
- ペアで楽しそうに聞き合っていたのが、外国語に対して楽しそうな印象を感じているようでいいと思った。
- 普段の授業でゲームを何しようかなと思っていたのですが、たて・よこゲームは使える!!と思ったので、今度実践してみます。校区で取り組むことによって、近くの学校の様子を見れるのはいいなあと思います。
- 小学校での授業は、毎回子どもが表情豊かに参加しており、先生方が愛情をもって接していることがよくわかりました。
- 授業のテンポがよく、とても楽しく授業にのめりこみました！いろいろなパターンで英語に慣れ親しむことができおり、大変参考になりました。ありがとうございました。
- 授業で使われていた活動や教具など参考になりました。
- 子どもたちが楽しく活動できていた。せっかくの学習だったが答えが決まっていたので、子ども自身の思いが表現できておらず残念だった。
- 先生と子どもたちの雰囲気がとてもよかったです。いい表情で参加できていて、見ている側も楽しく見させていただきました。楽しいからこそ、自然と身に付いていくと思いました。
- 生徒の興味を引く工夫（タブレットの活用や内容）、すべて英語で授業を進める難しさと、生徒との信頼関係、いろいろな部分が勉強になりました。
- 英語科の先生が大変になりそうということがよくわかりました。
- 指導要領改訂に向けて、自分たちが授業づくりにおいて大切なことがわかりました。今後の授業づくりに生かしていきたいです。
- 機械的にふりかえりをさせる授業ではなく、ふりかえりをしたいと思わせたり（とても面白い映画を見終わったような）、ふりかえりの必要性を感じさせられるような授業ができるようになりたいと思いました。
- オールイングリッシュで授業を進められていること、子どもたちがそれについていけることに驚きました。教材も大変工夫させられていて「どうすれば子どもの興味関心を引くことができるか」にこだわられているのも、すごいなと思いました。子どもたちの真剣で意欲的に学ぶ姿が見られて、とても嬉しかったです。
- 授業がすべて英語で行われており、自分が中学のときに受けていた授業との違いにとっても驚きました。中学校で説明が聞き取れるように、小学校のうちから英語に親しみ、耳をなれさせておかなければならないと思いました。
- 講師の先生のお話を聞いて思ったことは、今までの評価方法（書く、話す）を話す聞くに重点を置く必要があるのかなと思いました。ただ、そのためには高校の入試もそれにともなって変わっていく必要があるのかと思いました。

- 前時で文法を教えたのを本時でもう少し文法だけでもおさえられると苦手な児童がもう少し表現しやすかったのかなと思いました。ふりかえりの中で、周りの発表を聞きながら、頭の中が整理できていたのではないかと思います。J4の“第一声を聞く”、今1年生の担任ですが、小学校でもぜひ取り入れていきたいと思います。
- めあての立て方、ふりかえりの取り組み方法等まだまだ勉強が必要だと感じました。

## 2) 合同授業研について

- 一つの授業で様々な見方があり、自分では気にならなかった観点で見られる方もおり、すごく勉強になりました。
- 今後、外国語の授業の際、評価を改めてどのようにしなければならないかを考える機会になりました。
- 中学校の様子も知れてよかった。
- 今後の授業のヒントになることをたくさん学べました。
- たくさんの方の授業についての考え方に触れる機会になりました。
- 小中連携の取り組みを通して子どもの学習に対しての抵抗や落ち着き解消できていい現状を知れてよかったと思います。今回のような連携として今回の研究授業を見せてもらうことで、中学校の実態がよくわかり、小学校の英語に落とし込んで、教材を作るヒントになりました。中学の様子がみれることで“何を教えるのか”の部分が子どもに少しでも直結できる手がかりになると感じました。
- 英語の授業といえば、長文読解、文法などのイメージでしたが、今回改めて“考える授業”を目の当たりにしました。また、J4J3などのルールが」定着していて勉強になりました。また西中学校で目指している“ふりかえり”について意識することができました。
- 授業作りにおいてJ4J3を意識されていて、子どもたちがそれを授業の中で普通に取組んでいる姿を見て、西中全体で継続的にやられているんだということを改めて体感しました。小中連携の中で、小学校段階でもできる範囲で意識させる（西中の取り組みを伝える）ことができるのではないかと感じました。

## 3) 講演について

- 表現の例を作る場面がとても難しいと感じました。小学校の先生は大変だなと思いました。単語をどこまで知らないといけないのか？表現は難しいです。
- 英語が言いたいけど、難しい時は日本語交じりでもいいと聞いて安心しました。絶対英語にするとかだと楽しさがなくなってしまうことになるので良かったです。
- Small Talk について、その内容を少し体感することができ、良い経験でした。
- 低学年でもちょっとした時間に取り組める英語のゲームが知れて良かったです。
- 具体的なゲームや活動を紹介していただけて良かった。